

HT 105, 134, 135

**STIHL**



2 - 34 取扱説明書



# 目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	2
3	本機の使い方.....	8
4	運転準備.....	10
5	カッティングアタッチメント.....	10
6	バーとチェンの取り付け.....	11
7	チェンの張り.....	12
8	チェンの張り具合の点検.....	12
9	スロットルケーブルの調整.....	12
10	クリップの取り付け.....	13
11	燃料.....	13
12	給油.....	14
13	チェン オイル.....	14
14	チェン オイルの給油.....	15
15	チェン オイルの吐出点検.....	17
16	テレスコープシャフトの調整.....	17
17	ハーネスの取付け.....	17
18	背負い式キャリング システム.....	18
19	エンジンの始動と停止.....	19
20	作業中の注意事項.....	21
21	ガイド バーの保守.....	22
22	エアフィルター交換.....	22
23	キャブレターの調整.....	22
24	スパーク プラグ.....	23
25	機械の保管.....	24
26	チェン スプロケットの点検と交換.....	24
27	ソーチェンの整備と目立て.....	24
28	整備表.....	28
29	磨耗の低減と損傷の回避.....	29
30	主要構成部品.....	30
31	技術仕様.....	30
32	整備と修理.....	32
33	廃棄.....	32
34	EC 適合証明書.....	33
35	UKCA 適合宣言.....	33
36	アドレス.....	34

## 1 はじめに

### 1.1 シンボル マークについて

機械に表示されているシンボル マークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボル マークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジン オイルの混合燃料



チェンオイルタンク、チェン オイル

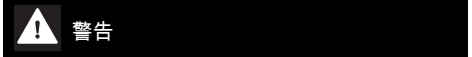


チェン回転方向

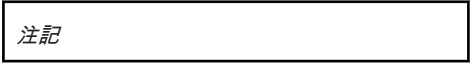


パージャーポンプの操作

### 1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。



本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

### 1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

## 2 使用上の注意および作業方法



非常に鋭利で、遠くまで届くカッターの付いた高速切断パワーツールのため、高枝カッターの作業時には特別な安全に関する注意事項を遵守してください。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要ときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書を遵守しないと、重傷または致命傷さえも負うことがあります。

現地で適用される安全規制(業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定)にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合: STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるか、専門的な研修に参加してください。

未成年者によるパワーツールの操作は許可されていません - ただし、監督者の指示の下で 16 歳以上の未成年者が作業を行う場合は例外です。

子供、動物、見物人を近付けないでください。

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないように配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

詳細は白紙使用  
ガイドラインを参照してください。

© ANDREAS STIHL AG & Co. KG 2024  
0458-699-4321-B; VA4.B24.

第三者の事故/負傷またはその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書と一緒に手渡してください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ベースメーカー着用者向けの注意点：本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がベースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではベースメーカー着用者にかかりつけ医やベースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

高枝カッターは、枝払い（枝の切断や刈り込み）専用です。木材や木製の物体の切断以外には使用しないでください。

**本機を他の目的に使用しないでください - 事故が起きる危険があります！**

STIHL 社が本パワーツールへの使用を明確に承認したが、仕様が同等のガイドバー、ソーチェン、チェンスプロケット、アクセサリのみを装着してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正のツール、ガイドバー、ソーチェン、チェンスプロケット、アクセサリを使用をお勧めしています。そうした純正品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険性が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

## 2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。

木々、茂み、機械の可動部品に絡まるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けしないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。



靴底が滑らない、爪先に鋼板の入った安全靴を履いてください。



**警告**



目を負傷する危険を低減するために、European Standard(欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

「個人」用のイヤープロテクター（例えばイヤーマフ）を着用してください。

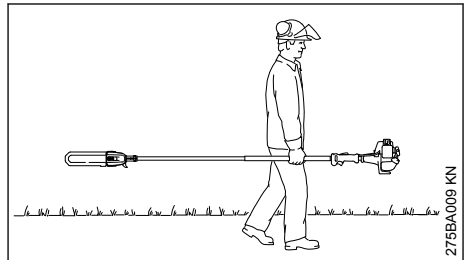
落下物で頭部を負傷する危険がある場合は、安全ヘルメットを着用してください。



耐性素材（革など）でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

## 2.2 機械の運搬



必ずエンジンを切ってください。

たとえ短距離であっても、機械を持ち運ぶときは常にチェンガード（鞘）を装着してください。

常にパワーツールのバランスを保ち、シャフトを保持して運搬してください。機械の高温になっている部分、特にマフラーには触れないでください。**火傷をするおそれがあります！**

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

## 2.3 給油



**ガソリンは可燃性が極めて高い液体です** - 火気を近付けないでください。燃料をこぼさないでください。喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - **燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。**

タンク内の高圧が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。



給油後は、スクリュー式燃料キャップをできるだけしっかりと閉めてください。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、大量の燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - **重度の火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります！**

## 2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します。本取扱説明書の関連する章を参照してください。

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ(手動燃料ポンプ付きの機械のみ)等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。**火災が起きる危険があります！** サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- ガイドバーが正しく装着されているか確認します。
- ソーチェンが適切に張られているか確認します。
- 停止スイッチは容易に押すことができません。
- チョークレバー、スロットルトリガー、スロットルトリガーロックアウトがスムーズに作動するか点検します。スロットルトリガーは自動的にアイドル位置に戻らなければなりません。スロットルトリガーロックアウトとスロットルトリガーを握ると、チョークレバーが **I** と **II** の位置から運転位置 **I** に戻らなければなりません。

- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、**火災が発生するおそれがあります！**
- 絶対に操作部や安全装置を改造しないでください。
- ハンドルは乾いた清潔な状態(オイルや汚れが付着していない状態)に保ちます。この点は、機械を安全に操作するために重要です。
- ハーネスを自分の身長や手の長さに合うように調整します。「ハーネスの取り付け」の項を参照してください。

**負傷する危険を低減するために、損傷したパワーツールや適切に組み立てられていないパワーツールは使用しないでください！**

ハーネスを使用する場合は、非常時に備えて、迅速にハーネスを外すが、機械を外して地面に降ろす練習をしてください。この練習中は、本機を地面に投げ下ろして損傷させないように注意してください。

## 2.5 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

パワーツールを屋外の水平面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。パワーツールを確実に保持します。エンジン始動時に作動するおそれがあるため、チェンを地面や他の障害物に接触させないでください。

本パワーツールは、一人で操作するように設計されています。エンジンの始動時でさえも、半径 15m 以内には第三者を立ち入らせないでください。**ケガをする危険があります！**

エンジンは取扱説明書に従って始動してください。

スロットルトリガーを放しても、ソーチェンはしばらく作動し続けます。**フライホイール効果！**

エンジンのアイドル回転数を確認します。スロットルトリガーを放した、エンジンのアイドル回転時には、チェンは停止しなければなりません。

燃えやすい物(木屑、樹皮、枯れ草、燃料など)を高温の排気ガスや高温のマフラー表面に近付けないでください。近付けると、**火災が発生する危険があります！**

## 2.6 機械の保持と操作



390BA026 KN

常にパワーツールを両手でしっかりと保持してください - 右手でコントロールハンドルを握り、左手でドライブチューブを握ります。左利きの使用者も同様です。コントロールハンドルとシャフトに親指を掛けて確実に握ってください。

テレスコープシャフト付きの機械では、テレスコープシャフトを作業高を超えて伸ばさないでください。

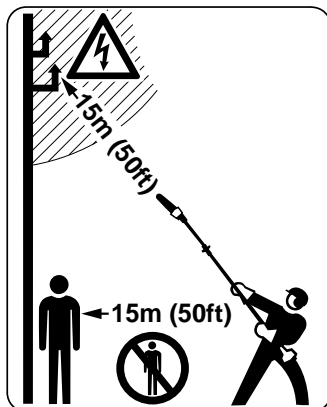
## 2.7 作業時

バランスと安定した足場を確保してください。

危険が差し迫っている場合や緊急時は、停止スイッチを押して速やかにエンジンを切ってください。



このパワーツールには、絶縁機能は搭載されていません。電線から 15 m 以内の範囲には立ち入らないでください。**感電死する危険があります！**



枝が落下したり、木片が飛散したりするおそれがあるため、作業位置の半径 15 m 以内には第三者を立ち入らせないでください。**ケガをする危険があります！**

この距離は、物体（車両、窓ガラスなど）に対してでも維持する必要があります。**物的損害が生じる危険があります！**

バーノースを電線から 15 m 以上離してください。それよりも距離が離れていても、高圧ケーブルから電流が放電することがあります。電線の付近で切断作業を行うときは、電線の電源を切ってから作業を開始してください。

必ずエンジンを切ってからソーチエンを交換してください。そうしないと、**ケガをする危険があります！**

エンジンのアイドル回転数が適正か確認します。スロットルトリガーを放した状態では、ソーチエンが動いてはなりません。

ソーチエンが停止しない場合は、サービス店に修理を依頼してください。定期的にアイドル回転数の設定を点検し、修正してください。

作動させたまま絶対に本機から離れないでください。

滑りやすい場所や濡れた場所（雪で覆われた面、斜面、不均一な地面など）では、特に注意してください。**滑る危険があります！**

障害物に注意します：樹木の切り株や根。**つまり危険があります！**

### 2.7.1 高所で作業する場合：

- 常にリフトバケットから作業します。
- はしごや枝に乗っている間は、絶対に本機を使用しないでください
- 足場が不安定な場所では絶対に作業しないでください。

－ 本機は絶対に片手で使用しないでください

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声(叫び声、警笛等)が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります!**

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないように配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があります。未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

**有毒ガスを吸い込んで重症または致命傷を負う**危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。

吐き気、頭痛、視覚障害(視野狭窄等)、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります!**

機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

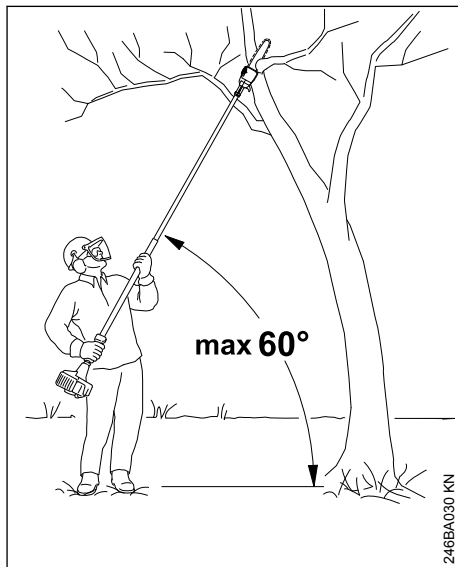
火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では**喫煙は避けてください**。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

本機の使用時に発生する粉塵(おがくずなど)、気体成分、煙は健康を害するおそれがあります。粉塵が発生する場合は、防塵マスクを着用してください。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった(強い衝撃が加わるか、落下した)場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください(「作業開始前」も参照)。特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

ハーネス使用時は、排ガス流が身体に当たらないように注意してください。**火災が生じるおそれがあります!**

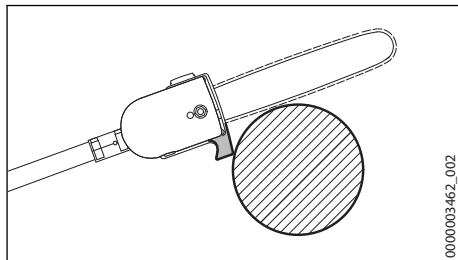
## 2.7.2 枝払い



パワーツールを傾けて保持します。切断する枝の真下には立たないでください。水平面から60°の角度を超えないでください。落下する樹木に注意してください。

作業場所を片付け、作業の邪魔になる大枝や茂みを取り除いてください。

枝払い前に退避路を確保し、障害物を完全に取り除きます。



切断する前に、幹に近い枝にバーを合わせます。それにより、切断を開始したときにパワーツールが揺れずに済みます。

フルスロットルにして、切断作業を開始します。常に適切に目立てをした、張りりが正常なソーチエンを使用して切断を行います。デプスゲージの設定が適正かどうか確認してください。

始動スロットル位置でパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転を制御できません。

チェーンが挟まれないよう、上側から下向きに垂直切りします。

太い枝や重量のある枝の場合は、負荷軽減カットを入れます。「高枝カッターの使用」の項を参照してください。

張力がかかっている枝の切断時は特に注意してください。**ケガをするおそれがあります!**常に、まず圧縮がかかっている側に負荷軽減カットを入れ、次に張力がかかっている側を玉切りします。

裂けた樹木の切断時は注意してください。**木片が飛散してケガをするおそれがあります!**

斜面で作業を行うときは、必ず高い側に立つか、切断する幹の側面を立ててください。転がる幹に注意してください。

切断し終わると、パワーツールは切り口の中でガイドバーによって支持されなくなります。作業者が機械の重量を支える必要があります。**制御できなくなる危険があります!**

必ずソーチェンを回転させたままパワーツールを切り口から引き出してください。

本パワーツールは枝払いや剪定専用であり、伐倒用ではありません。**事故が起きるおそれがあります!**

ソーチェンは異物から離れた位置で使用してください。石や釘等が飛散し、ソーチェンが損傷するおそれがあります。

回転中のソーチェンが石や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、特定の条件下では燃えやすい物質が引火するおそれがあります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合は、燃えやすい物質、乾燥した植物や雑木の近くでパワーツールを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄森林管理事務所にお問い合わせください。

機械から離れる前に、必ずエンジンを切ってください。

## 2.8 振動

チェーンを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります(「白ろう病」)。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます:

- 手の防護(暖かい手袋)
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします:

- 血行不良の特殊体質(症状: 指が頻繁に冷たくなる、指が疼く)。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ(握む力が強いと血行が低下します)。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状(指のしびれ等)が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら(指が疼くなど)、医師にご相談ください。

## 2.9 整備と修理

定期的にも本機を整備してください。取扱説明書に記載されていない整備や修理は、試みないでください。記載されていない作業は、すべてサービス店に依頼してください。

STIHL 社では、認定を受けた STIHL サービス店 のみに整備や修理を依頼されることをお勧めしています。STIHL サービス店のスタッフにはトレーニングを受ける機会が定期的にと与えられており、必要な技術情報が提供されています。

高品質の交換部品のみを使用し、事故および本機の損傷を回避してください。ご不明な点は、販売店にお問い合わせください。

STIHL 社では STIHL 純正交換部品の使用をお勧めしています。これらは、お客様の機種と性能要件に合わせて特別に設計されています。

エンジンが偶発的に始動してケガをする危険を低減するために、**必ずエンジンを停止させ、スパークプラグターミナルを取り外してから修理、保守、および清掃作業を行ってください。**- 例外: キャブレターおよびアイドル回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態で、スターターでエンジンを始動しないでください。エンジン外部で火花が発生し、**火災が発生する危険性**があります。

**火災が生じる危険**を減らすために、裸火の付近で機械の修理や保管を行わないでください。

定期的な燃料タンクキャップが漏れていないか点検してください。

STIHL 社が承認した種類の、正常な状態のスパークプラグだけを使用してください - 「技術仕様」を参照してください。

イグニッションケーブルに異常がない(絶縁状態が良好で、確実に接続されている)か点検してください。

マフラーの状態を点検してください。

火災が生じる危険を低減するために、マフラーが損傷しているか、欠落した状態では機械を使用しないでください - 聴覚障害が生じる危険もあります。

火傷をする危険があるため、高温のマフラーに触れないでください。

以下を行うときは、エンジンを切ります -

- チェンの張りを点検する。
- チェンの張りを再調整する。
- チェンを交換する。
- 不具合を修理する。

目立てに関する注意事項を守ってください - 機械を安全かつ適切に取り扱う扱うためには、チェンとガイドバーを常に正常な状態に保ってください。チェンは適切に目立てをして張りを調整し、十分に潤滑する必要があります。

チェン、ガイドバー、スプロケットは、常に適切なタイミングで交換してください。

燃料とチェンオイルの保管には、適切なラベルを付けた安全な容器のみを使用してください。ガソリンの取り扱い時は、肌に直接付着させたり、気化燃料を吸い込んだりしないよう注意してください - 健康上のリスクがあります。

## 3 本機の使い方

### 3.1 準備

- ▶ 適切な防護服を着用し、安全規定に注意してください
- ▶ テレスコープシャフトを希望の長さに調整します (HT 105、HT 135 のみ)
- ▶ エンジンを始動します
- ▶ ハーネスの取付け

### 3.2 切断順序

枝が落ちやすいように、必ず下側の枝から切断してください。重量がある (太い) 枝の場合は、扱いやすい大きさに分けて切断します。



警告

切断する枝の真下には絶対に立たないでください - 落下する枝に注意してください！ 枝が地面に当たって跳ね返り、作業者に当たる可能性があるため注意してください - ケガをする危険があります！

### 3.3 廃棄

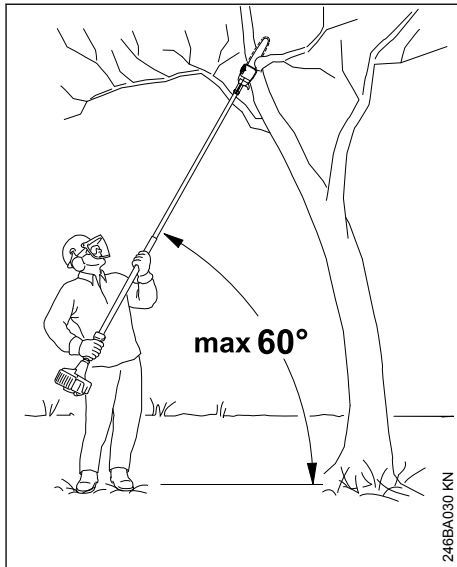
切断した枝や削りくずは、家庭用ゴミと共に廃棄しないでください - 堆肥にすることができません！

## 3.4 作業方法

右手でコントロールハンドルを握り、左手でシャフトを握ります。左手は持ちやすい位置に伸ばしてください。

### HT 134

常にハンドルホース部分を左手で握ってください。

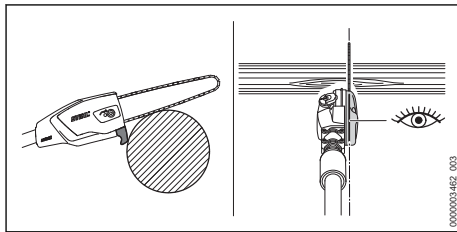


シャフトの角度が常に 60° 以下になるように保持します！

最も疲れにくいのは、ツールの角度が 60° の作業位置です。

用途に応じて、これとは異なる角度で作業することができます。

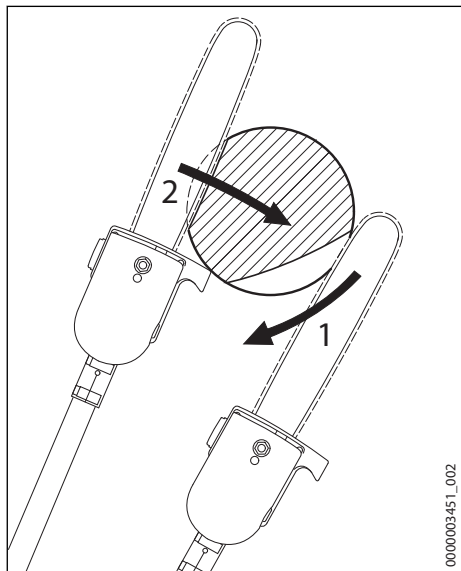
### 3.4.1 垂直切り



ソーチェンが切り口に挟まらないように、ハウジング部分が枝に触れるようにバーを当て、上から下に垂直に切り落とします。マーキングラインを使用してソーチェンを正確に当てることができます。



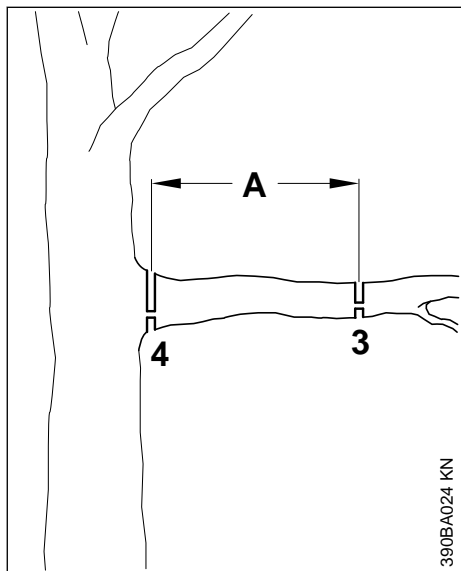
## 3.4.2 負荷軽減カット



太い枝の切断時に樹皮をはがさないよう、枝の下側に

- ▶ 負荷軽減カット (1) を施します。その際は、ソーチェン当て、弧を描くようにバーの先端部分まで下に引きます
- ▶ 垂直切り (2) を施します - ハウジング部分が枝に触れるようにバーを位置決めします

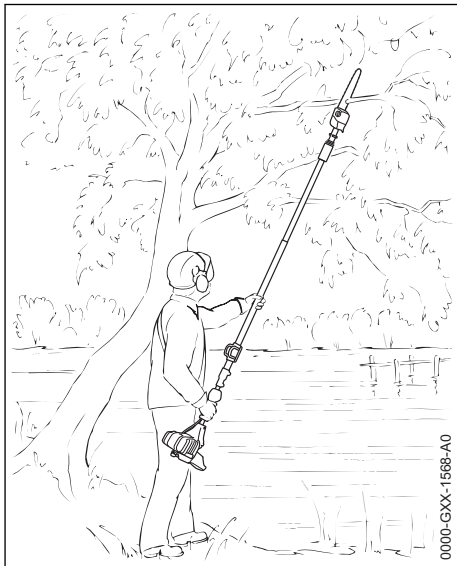
## 3.4.3 太い枝の剪定



枝の直径が 10 cm (4 in) よりも太い場合は、最初に以下を行います。

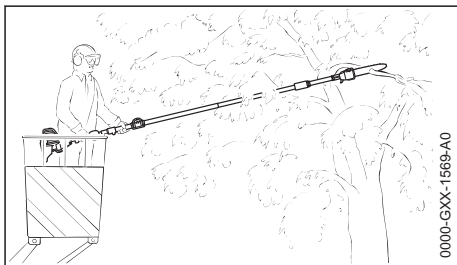
- ▶ 最終切断部分から約 20 cm (8 in) 離れた位置 (A) で負荷軽減カットで切り込み (3) 垂直切断し、次に、本来の剪定位置 (4) で負荷軽減カット、垂直切りの順に切断します

## 3.4.4 障害物がある場合



本機は作業範囲が広いので、川や湖、沼などの障害物があっても切断できます。作業角度は、枝の位置によって変わります。

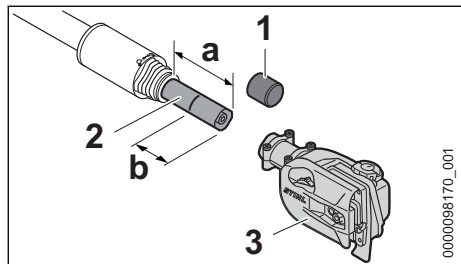
## 3.4.5 リフトバケットからの作業



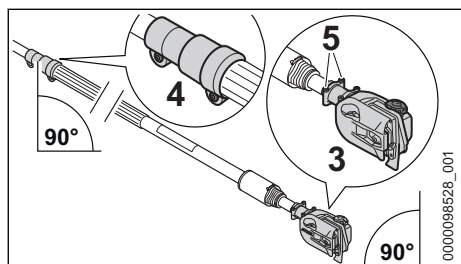
本機は作業範囲が広いので、リフトバケットで他の枝を傷めることなく枝を幹周辺で直接切断することができます。作業角度は、枝の位置によって変わります。

## 4 運転準備

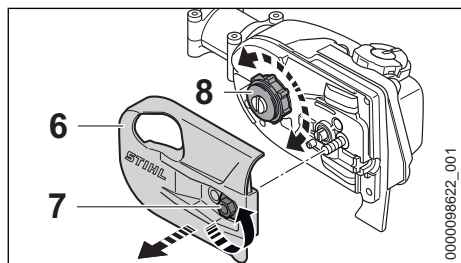
### 4.1 高枝カッターの組立て



- ▶ キャップ (1) を外します
- ▶ テレスコープシャフトを  $a = 10$  cm に調整します (HT 105、HT 135)
- ▶ シャフト (2) に  $b = 6$  cm でマークを付けます
- ▶ ドライブ (3) をシャフト (2) に  $b$  のマークまで押し込みます



- ▶ 図のように、クランプスリーブ (4)(シャフト下側にクランプネジがある状態) とドライブ (3) (オイルタンクキャップが上を向いた状態) を方向調整します
- ▶ ネジ (5) を締め付けます

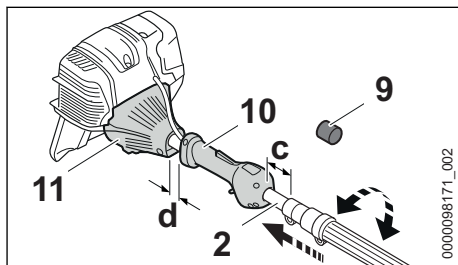


ドライブ (3) をシャフト (2) に  $b$  のマークまで押し込むことができない場合:

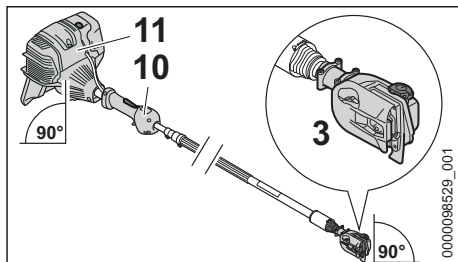
- ▶ ナット (7) を緩め、チェンスプロケットカバー (6) を外します
- ▶ チェンスプロケット (8) を回し、ドライブ (3) をシャフト (2) に  $b$  のマークまで押し込みます

- ▶ チェンスプロケットカバー (6) を取り付けます
- ▶ ナット (7) を取り付け、締め付けます

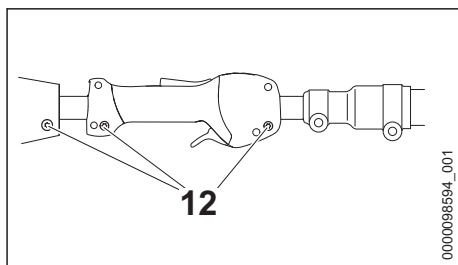
HT 105、HT 135



- ▶ 保護キャップ (9) を取り外します
- ▶ シャフト (2) を回して、 $c = 2$  cm、 $d = 3$  cm の距離になるまでコントロールハンドル (10) とハウジング (11) の方向に押し込みます



- ▶ 図のように、ハウジング (11)(手動燃料ポンプが上を向いた状態)、コントロールハンドル (停止スイッチが上を向いた状態)、ドライブ (3)(オイルタンクキャップが上を向いた状態) を方向調整します



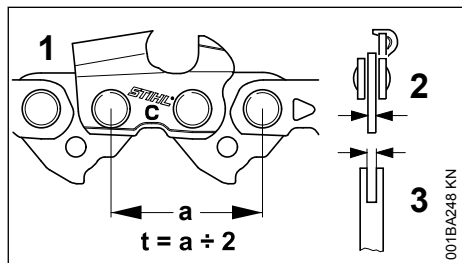
- ▶ ネジ (12) を締め付けます

高枝カッターを再度分解する必要はありません。

## 5 カutting アタッチメント

カutting アタッチメントは、ソーチェン、ガイドバー、チェンスプロケットで構成されています。

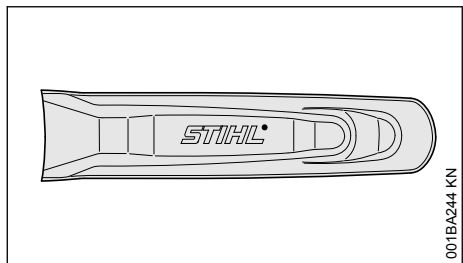
標準仕様のカッティングアタッチメントは高枝カッターに合致するように設計されています。



- ソーチェン (1) のピッチ (t) を、チェンスプロケットやロー口マッチックガイドバーのノーズスプロケットのピッチと適合させてください。
- ソーチェン (1) のドライブリンクゲージ (2) はガイドバー (3) の溝幅と一致させてください。

適合しないコンポーネントを使用すると、カッティングアタッチメントは短時間使用しただけで修理不可能なほどに破損してしまうことがあります。

## 5.1 チェンガード



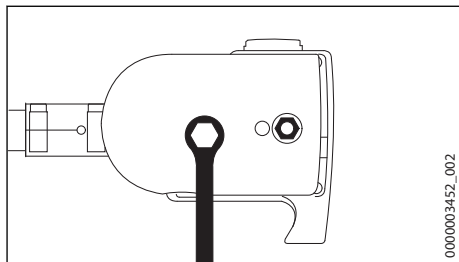
カッティングアタッチメントに適合するバー鞘が含まれています。

異なる長さのガイドバーが高枝カッターに取り付けられている場合、常に正しい長さのチェンガードを使用してガイドバーを完全に覆うようにする必要があります。

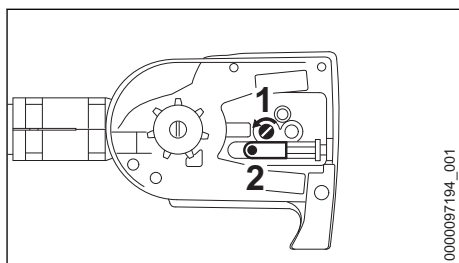
適合するガイドバーの長さは、チェンガードの側面にマークされています。

## 6 バーとチェンの取り付け

### 6.1 チェンスプロケットカバーの取り外し

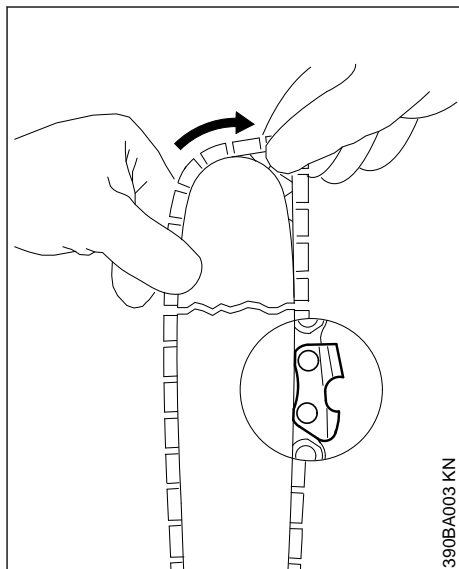


- ▶ ナットを外し、カバーを取り外します。



- ▶ テンショナースライド (2) がハウジングスロットの左端に当たるまでスクリュー (1) を反時計回りにまわし、時計回りに 5 回転させます。

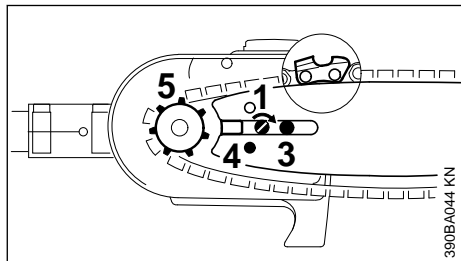
### 6.2 ソーチェンの取り付け




**警告**

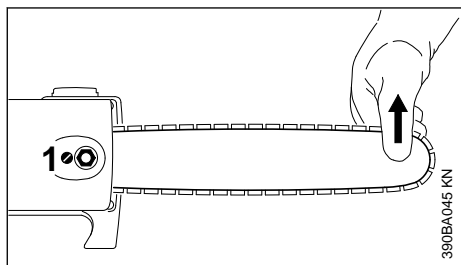
鋭利なカッターから手を保護するために作業用手袋を着用してください。

- ▶ ソーチェンをバーノーズ(前端)側から取り付けます。



- ▶ ガイドバーをスクリュー (3) に取り付け、テンショナーライドのペグを穴 (4) にはめ込みます。同時にソーチェンをチェンスプロケット (5) に掛けます。
- ▶ バーの下側でチェンのたるみがかくわずかになるまでテンショニングスクリュー (1) を時計回りにまわします。ドライリンクがバーの溝とかみ合っているか確認してください。
- ▶ カバーを取り付け、ナットを手で締め付けます。
- ▶ 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

## 7 チェンの張り



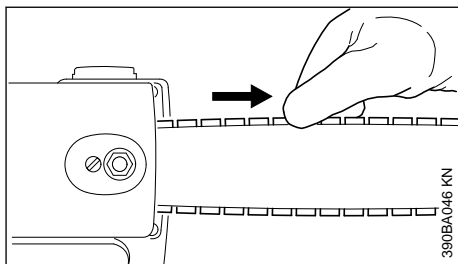
切断作業中のチェンの張り調整

- ▶ エンジンを切ります。
- ▶ ナットを緩めます。
- ▶ ガイドバーの先端を持ち上げます。
- ▶ ドライバーでスクリュー (1) を時計回りにまわし、ソーチェンをガイドバーの下側に密着させます。
- ▶ ガイドバーをさらに持ち上げ、ナットを確実に締め付けます。
- ▶ 「チェンの張り具合の点検」に進んでください。

新しいソーチェンは、しばらく使用したソーチェンよりも頻繁に張り具合を点検してください。

- ▶ チェンの張りは頻繁に点検してください。「作業中の修理事項」の項を参照。

## 8 チェンの張り具合の点検



- ▶ エンジンを切ります。
- ▶ 作業用手袋を着用して手を保護してください。
- ▶ ソーチェンはガイドバーの下側にたるみなしにフィットし、ガイドバーに沿って手で引くことができる状態になっていなければなりません。
- ▶ 必要に応じてソーチェンを張り直してください。

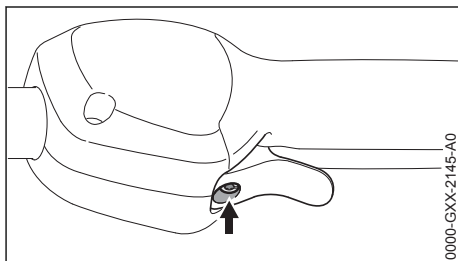
新しいソーチェンは、しばらく使用したソーチェンよりも頻繁に張り具合を点検してください。

- ▶ チェンの張りは頻繁に点検してください。「作業中の修理事項」の項を参照。

## 9 スロットルケーブルの調整

本機の組み立て後または長期間の運転後に、スロットルケーブルを調整する必要が生じる場合があります。

スロットルケーブルの調整は、必ず本機を完全かつ適切に組み立てた後に行ってください。

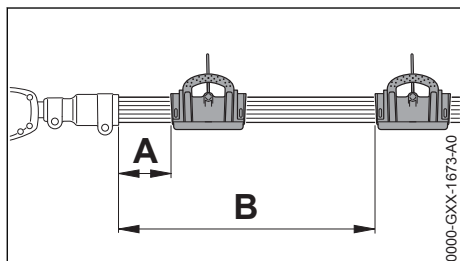


- ▶ スロットルトリガーをフルスロットル位置に合わせます。
- ▶ スロットルトリガーのスクリューを時計回りにまわし、最初に抵抗が感じられた位置で止めます。その位置から同一方向に半回転させます。

## 10 クリップの取り付け

### 10.1 クリップ固定式吊り下げ用リング (テレスコープシャフト付きバージョンのみ)

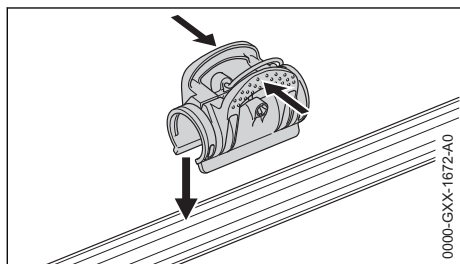
#### 吊り下げ用リングの位置



シャフトの長さに応じて以下の位置をお勧めします：

- テレスコープシャフト収縮状態、距離  
A = 15 cm (6 in)
- テレスコープシャフト完全伸張状態、距離  
B = 50 cm (20 in)

#### クリップ固定式吊り下げ用リングの取り付け



- ▶ クリップの両端 (左右矢印) をすぼめ、吊り下げ用リングをシャフトに圧入します。

## 11 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



**警告**

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

### 11.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最大化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

### 11.2 燃料の混合

#### 注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

#### 11.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン (E27) を使用して本来の性能を発揮します。

#### 11.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra (ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

#### 11.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください (オイル 1 に対してガソリン 50)。

#### 11.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

- ▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

### 11.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

**混合燃料は時の経過に伴って劣化します** - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短時間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

- ▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



#### 警告

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

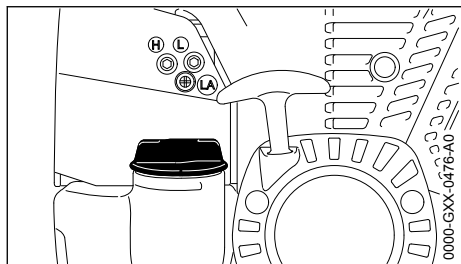
- ▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

## 12 給油

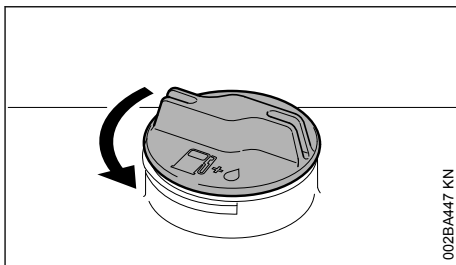


### 12.1 準備



- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐために、タンクキャップとその周囲を清掃してください。
- ▶ タンクキャップが上を向くように本機を置いてください。

### 12.2 タンクキャップを開ける



- ▶ タンク開口部から外れる状態になるまで、キャップを反時計回りに回転させます。
- ▶ タンクキャップを取り外します。

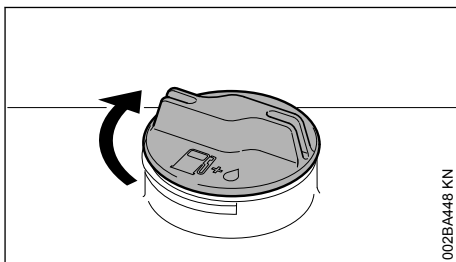
### 12.3 燃料の補充

給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。

STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

- ▶ 燃料を補充します。

### 12.4 タンクキャップを閉じる



- ▶ キャップを開口部に載せます。
- ▶ キャップを時計回りに止まるまで回転させます。手でできるだけきつく締め付けてください。

## 13 チェンオイル

チェンとガイドバーの自動的で信頼性のある潤滑のため、環境に優しい高品質チェンオイルだけを使用してください。生分解が速いスチールハイオブラスをお勧めします。

## 注記

生分解性チェンオイルには、十分な耐劣化性が重要です（スチールバイオプラス等）。耐劣化性に乏しいオイルは、樹脂化が速い傾向にあります。その結果、特にチェン駆動部やチェンに蓄積物が固着し、除去しにくくなります。オイルポンプが故障する原因ともなります。

使用するオイルの品質は、ソーチェンとガイドバーの寿命に大きく影響します。従って、必ず専用のチェンオイルだけを使用してください。

## 警告

廃油を使用しないでください! 廃油は、長期間繰り返し肌に触れると、皮膚ガンを引き起こすことがあります。さらに、環境に害を与えることがあります!

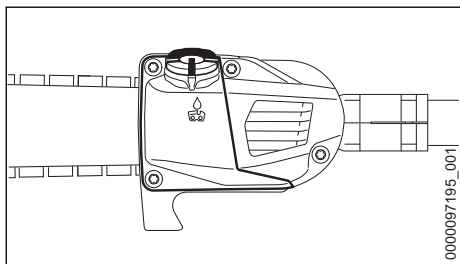
## 注記

廃油には必要な潤滑特性がなく、チェンの潤滑には適していません。

## 14 チェン オイルの給油

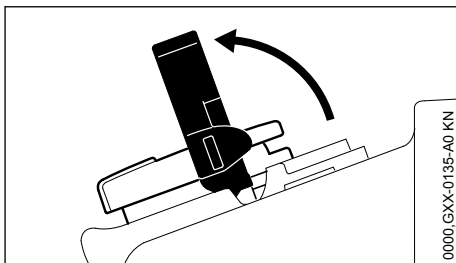


## 14.1 本体の準備

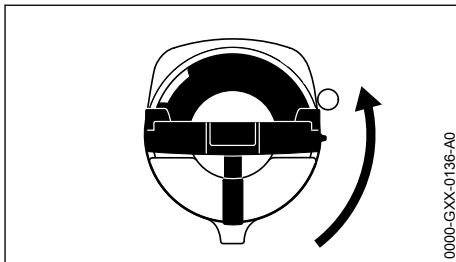


- ▶ 汚れがオイルタンクの中に入らないように、燃料タンクキャップとその周辺をしっかりと清掃します
- ▶ 燃料タンクキャップが上を向くように本機を置いてください

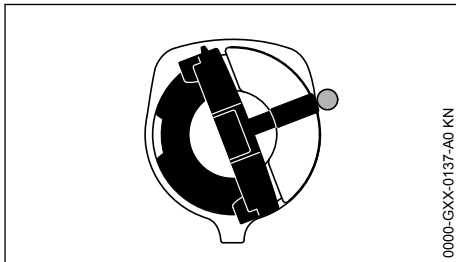
## 14.2 キャップの開け方



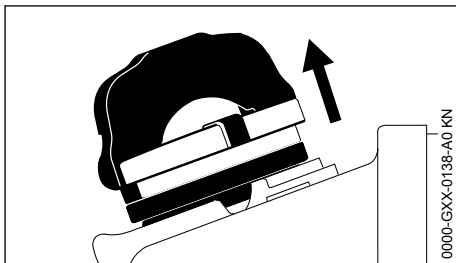
- ▶ グリップを起こします



- ▶ 燃料タンクキャップを回します (約 1/4 回転)



- ▶ 燃料タンクキャップとオイルタンクのマークを合わせます



- ▶ 燃料タンクキャップを取り外します

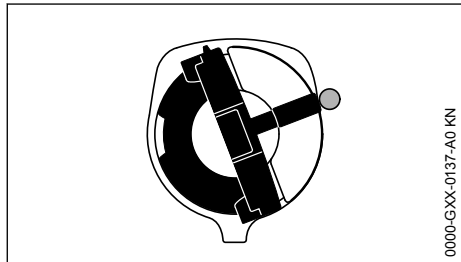
## 14.3 チェンオイルの補充

- ▶ チェンオイルを補充します

給油の際は、チェンオイルをこぼしたり、あふれさせたりしないように注意してください。

STIHL では、チェーンオイル用の STIHL 給油システム (特殊アクセサリー) の使用をお勧めしています。

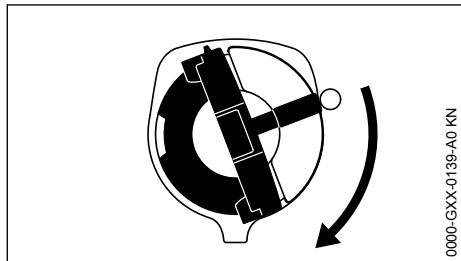
## 14.4 キャップの閉じ方



0000-GXX-0137-A0 KN

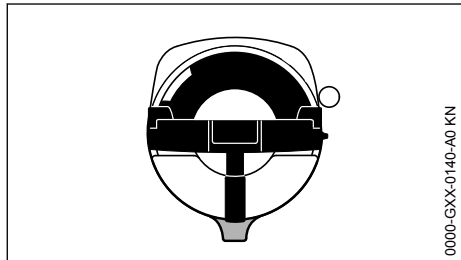
グリップを垂直位置に合わせます:

- ▶ 燃料タンクキャップを取り付けます。燃料タンクキャップとオイルタンクのマークは必ず一致しなければなりません
- ▶ 燃料タンクキャップを停止位置まで押し下げます



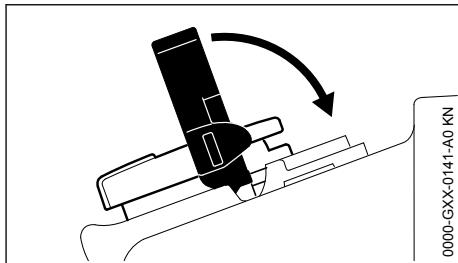
0000-GXX-0139-A0 KN

- ▶ 燃料タンクキャップを押ししたまま時計回りに止まるまで回し、所定の位置にはめ込みます



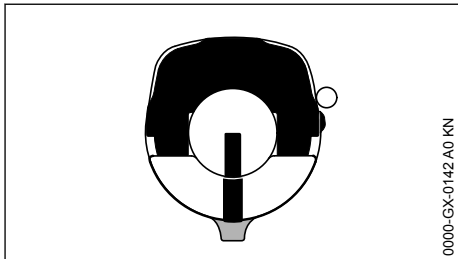
0000-GXX-0140-A0 KN

すると燃料タンクキャップとオイルタンクのマークが互いに一致します



0000-GXX-0141-A0 KN

- ▶ グリップを倒します



0000-GX-0142-A0 KN

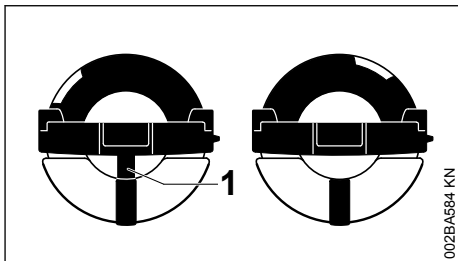
燃料タンクキャップがロックされました

オイルタンク内のオイル量が減らない場合は、潤滑油のオイル供給に問題がある可能性があります。チェーンの潤滑状態を点検し、オイルダクトを清掃し、必要に応じてサービス店にご相談ください。STIHL では、認定を受けた STIHL サービス店のみメンテナンスや修理を依頼することをお勧めしています。

## 14.5 燃料タンクキャップをオイルタンクの開口部にロックできない場合

燃料タンクキャップの下部が上部とずれています。

- ▶ 燃料タンクキャップをオイルタンクから取り外し、上から目視点検します

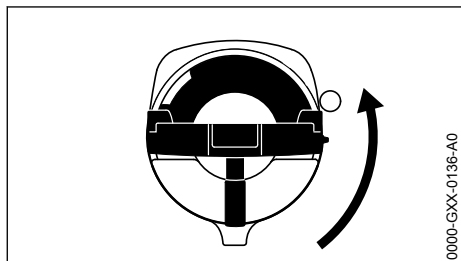


002BA584 KN

左: 燃料タンクキャップの下部がねじれている - 内側マーク (1) が外側マークと合っています

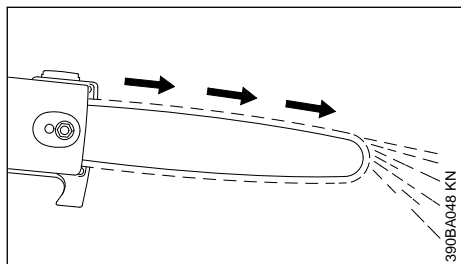


右: 燃料タンクキャップの下部が正しい位置にある - 内側マークがグリップ下にあります。外側のマークとは合っていません。



- ▶ 燃料タンクキャップを開口部に取り付け、フイラーネックにかみ合うまで反時計回りに回します
- ▶ 燃料タンクキャップをさらに反時計回りに回します (約 1/4 回転)。燃料タンクキャップの下部が正しい位置になります
- ▶ 燃料タンクキャップを時計回りに回し、所定の位置にロックします。「キャップの閉め方」の項を参照

## 15 チェン オイルの吐出点検



ソー チェンは常に多少のオイルを飛散しています。

### 注記

チェンは、潤滑油なしで操作してはいけません。チェンを乾いたまま回転させると、カッティングアタッチメント全体がすぐに損傷して、修理不能になります。作業を始める前に、常にチェンの潤滑状態とタンク内のオイル量を点検してください。

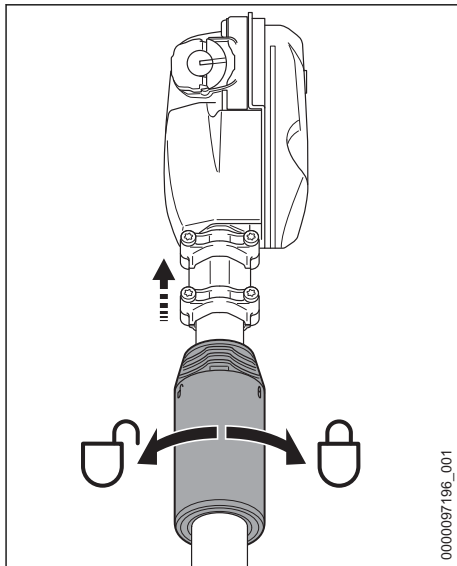
新品のチェンは 2~3 分間ならし運転をしてください。

チェンのならし運転を行った後、チェンの張り具合を点検し、必要な場合は再調整してください - 「チェンの張り具合の点検」の項を参照してください。

## 16 テレスコープ シャフトの調整



必ずエンジンを切ってから、チェンガードを取り付けてください！

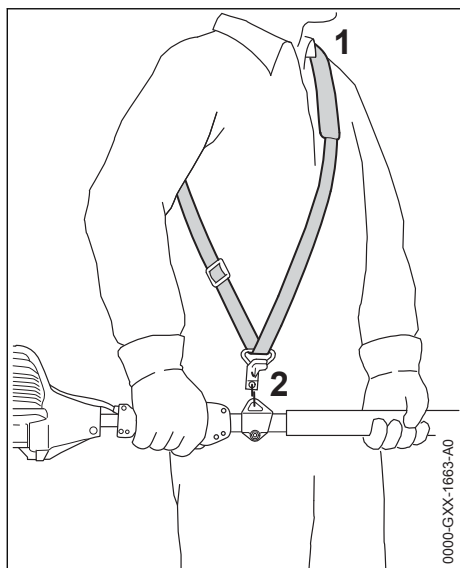


- ▶ クランプナットを反時計回りに半回転させます。
- ▶ シャフトを好みの長さに調整します。
- ▶ ナットを時計回りに締め付けます。

## 17 ハーネスの取付け

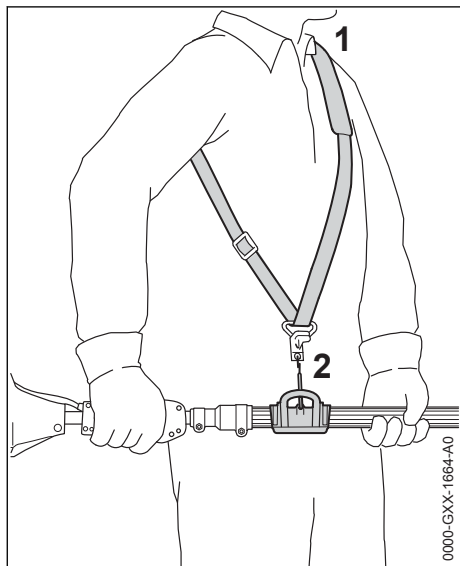
ハーネスのタイプとバージョンは、市場によって異なります。

## 17.1 肩掛けベルト (HT 134)



- ▶ 肩掛けベルト (1)を着用します。
- ▶ ベルトの長さを調整します。
- ▶ パワーツールを取り付けた状態で、カラビナ (2) を使用者の右腰とほぼ同じ高さに合わせてください。

## 17.2 肩掛けベルト (HT 105、HT 135)

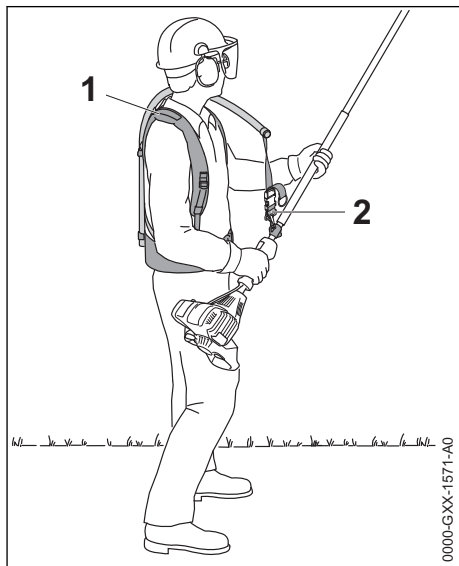


- ▶ 肩掛けベルト (1)を着用します。
- ▶ ベルトの長さを調整します。

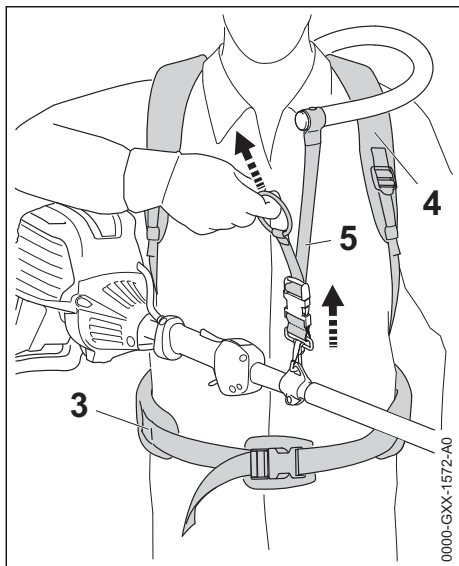
- ▶ パワーツールを取り付けた状態で、カラビナ (2) を使用者の右腰とほぼ同じ高さに合わせてください。

## 18 背負い式キャリング システム

## 18.1 固定シャフト付きバージョンのみ

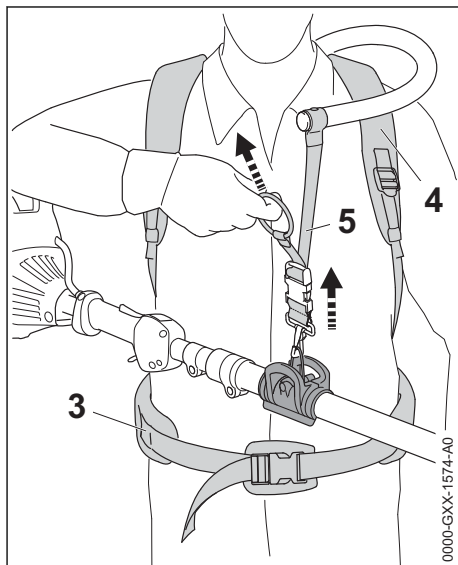


- ▶ 背負式キャリングシステム (1) を背負い、取扱説明書に従って調整します。
- ▶ カラビナ (2) を機械の吊り下げ用リングに取り付けます。
- ▶ 切断時には、高枝カッターにキャリングストラップを取り付けます。



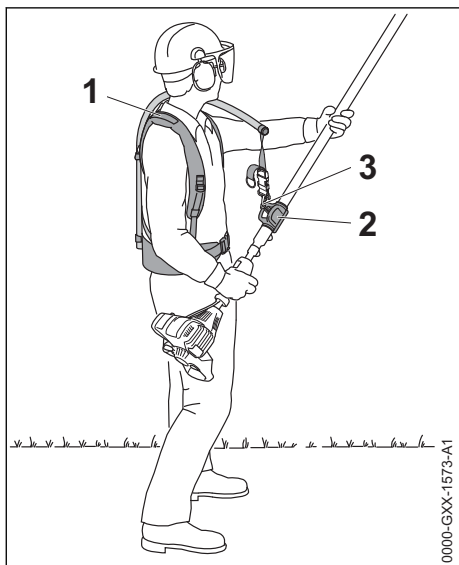
▶ ヒップベルト (3)、両方の肩掛けベルト (4)、キャリングストラップ (5) を調整します。

▶ 切断時には、高枝カッターにキャリングストラップを取り付けます。

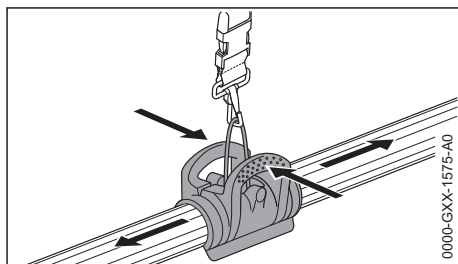


▶ ヒップベルト (3)、両方の肩掛けベルト (4)、キャリングストラップ (5) を調整します。

## 18.2 テレスコープシャフト付きバージョンのみ



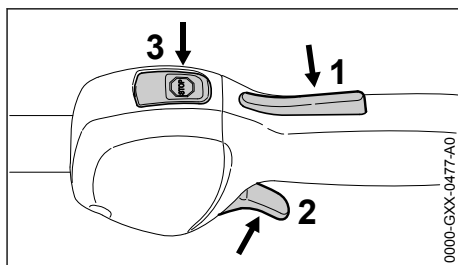
▶ 背負式キャリングシステム (1) を背負い、取扱説明書に従って調整します。  
▶ カラбина (3) をシャフトの吊り下げ用リング (2) に取り付けます。



▶ (吊り下げ用リング)のクリップをすぼめ、シャフトを上下に移動させます。

## 19 エンジンの始動と停止

### 19.1 操作部

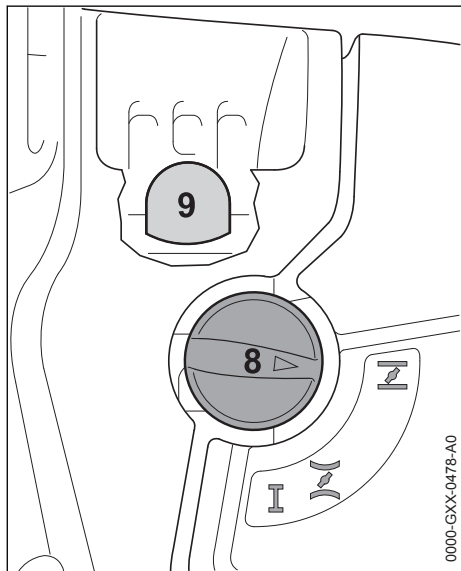


- 1 スロットルトリガーロックアウト
- 2 スロットルトリガー
- 3 運転および停止位置の停止スイッチ。停止スイッチ (⊖) を押してイグニッションをオフにします - 「停止スイッチとイグニッションシステムの機能」を参照してください。



### 19.1.1 停止スイッチとイグニッションシステムの機能

停止スイッチを押すと、イグニッションがオフになり、エンジンが停止します。停止スイッチを放すと、停止スイッチは自動的に通常運転位置に戻ります：エンジンが停止した後、イグニッションが再度オンになります - この状態では、エンジンの始動準備が整っています。

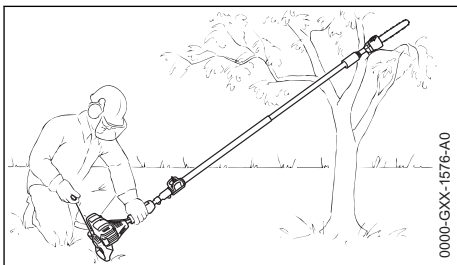
## 19.2 エンジンの始動



- ▶ 手動燃料ポンプ (9) を最低 5 回押してください - ポンプにすでに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。
- ▶ チョークノブ (8) を押し込みながら、エンジン温度に適した以下の位置に回します：

 エンジンが冷えている場合  
 暖機スタートの場合 - エンジン始動後、暖まりきっていない場合もこの位置を使用します。

### 19.2.1 始動操作



- ▶ チェンガードを取り外します。チェンが地面やその他の物体と接触していないことを確認します。
- ▶ 機械を地面に置きます：エンジンサポートとフックを地面にしっかりと置きます。必要に応じて、フックを盛り上がったところ (盛り土や枝など) に置いて支えます。

#### 警告

高枝カッターの作業範囲に第三者がいなかったことを確認してください。

- ▶ 安全と安定した足場に配慮してください。
- ▶ 左手で機械のファンハウジング部分を持ち、機械を地面にしっかりと押し付けます - 親指がファンハウジングの下になるようにします。

#### 注記

ドライブチューブに足を載せたり、ひざまずいたりしないでください。

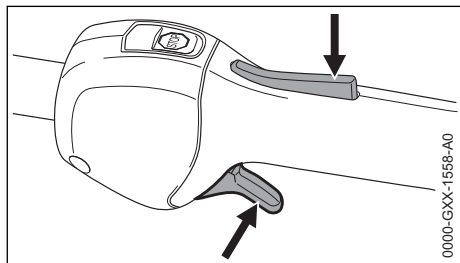
- ▶ 右手でスターターグリップを握ります。
- ▶ スターターグリップをゆっくりと引き、かみ合った感じがしたら、素早く勢い良く引っ張ります。

#### 注記

スターターロープは最後まで引き出さしないでください - **切れるおそれがあります。**

- ▶ スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。
- ▶ エンジンがかかるまで始動操作を続けます。

### 19.2.2 エンジンがかかったらすぐに



- ▶ スロットルトリガーロックアウトを押し下げ、スロットルを開きます - チョークノブが運転位置 I に移動します。冷機スタートの後では、スロットルを数回開いてエンジンを暖めます。



**警告**

エンジンのアイドル中にソーチェンが回転して負傷する危険があります。エンジンのアイドル中にソーチェンが回転しないよう、キャブレターを調整してください - 「キャブレターの調整」を参照してください。

これで機械の使用準備が完了しました。

### 19.3 エンジンの停止

- ▶ 停止スイッチ(モーメンタリースイッチ)を押します - エンジンが停止します - 停止スイッチを放します - 運転位置に戻ります。

### 19.4 始動に関するその他の注意事項

エンジンが冷機スタート位置 **II** または加速状態でストールする。

- ▶ チョークノブを **II** に移動して、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

エンジンが暖機スタート位置 **III** でかからない

- ▶ チョークノブを **II** に移動し、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

エンジンがかからない場合

- ▶ すべての設定が正しいか確認します。
- ▶ 燃料タンク内に燃料があるか確認し、必要に応じて給油します。
- ▶ スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- ▶ 始動手順を繰り返します。

エンジン燃焼室への燃料吸い込みすぎ

- ▶ チョークノブを **I** の位置に合わせ、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

燃料タンクが完全に空になった場合

- ▶ 再給油後、手動燃料ポンプにすでに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ チョークノブをエンジン温度に合った位置に合わせます。
- ▶ エンジンを再始動します。

## 20 作業中の注意事項

### 20.1 ならし運転中

新品の機械は、最初の燃料 3 タンクの間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5~15 回分の使用後となります。

### 20.2 作業中

注記

出力を増そうとして混合比を薄くしてはいけません - エンジンを損傷することがあります - 「キャブレターの調整」の項を参照してください。

#### 20.2.1 チェンの張りを時々点検してください!

新品のチェンは、しばらく使用したもののよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

#### 20.2.2 チェンが冷えている場合

チェンがバーの下部に軽く触れ、かつ手で回せるくらいが正しい張り方です。必要に応じて、チェンの張りを再調整します - 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

#### 20.2.3 作業温度のチェン

チェンが伸びてきます。ドライブリンクがバーの溝から出てはいけません。チェンがバーから飛び出すことがあります。チェンの張りを再調整します - 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

注記

チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、ギヤーシャフトとベアリングが損傷することがあります。

#### 20.2.4 長時間のフルスロットル運転後

しばらくの間アイドルして、エンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている

部品 (イグニッションやキャブレター) を熱から守るためです。

## 20.3 作業後

- ▶ 作業中に暖まったチェンの張りを調整した場合、作業終了後にチェンを緩めてください。

### 注記

作業が終了したら、チェンは必ず緩めてください。チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないで、ギヤーシャフトとベアリングが損傷することがあります。

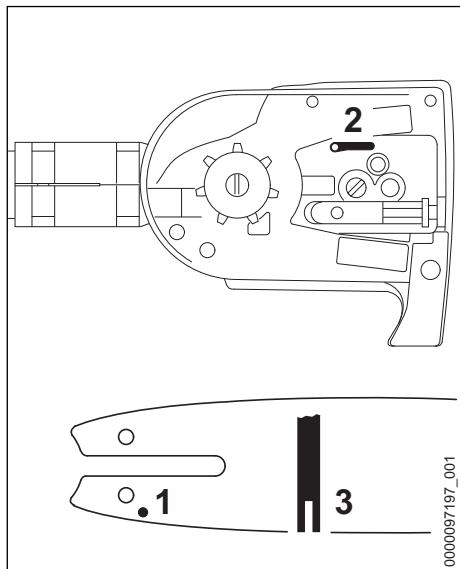
### 20.3.1 短期間使用しない場合:

チェン鞘を取り付けて、エンジンが冷えるまで待ちます。凝結を避けるために、燃料を充填した状態で、次の使用時まで乾燥した場所で保管します。発火源の近くに置かないでください。

### 20.3.2 長期間使用しない場合:

「機械の保管」の項を参照してください。

## 21 ガイド バーの保守



- ▶ チェンの目立てや交換を行うたびにガイドバーを裏返しにします。それにより、片側 (特にバーの先端や下側) のみの摩耗を防ぐことができます。
- ▶ オイル供給穴 (1)、オイル流路 (2)、バーの溝 (3) は定期的に清掃してください。

- ▶ 切断に最も使用するガイドバー部分の溝の深さをファイリングゲージ (特殊アクセサリ) の目盛で測定します。

チェンの種類 チェンのピッチ 溝の最低深さ

Picco(ピコ)	3/8" P	5.0 mm
Picco(ピコ)	1/4" P	4.0 mm

溝の深さが規定値よりも浅い場合:

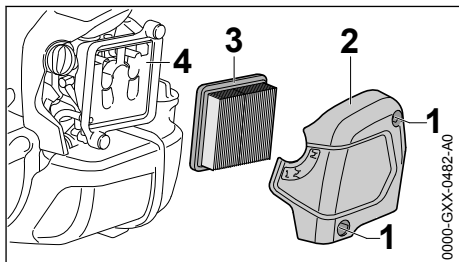
- ▶ ガイドバーを交換します。

交換しないと、ドライブリンクタングが溝の底部を擦るようになり、カッターとタイストラップがバーレールに載らなくなります。

## 22 エアーフィルターの交換

フィルターの平均寿命は、1年以上です。出力が顕著に低下しないかぎり、フィルターカバーを取り外したり、エアーフィルターを交換したりしないでください。

### 22.1 エンジン出力が著しく低下した場合



- ▶ チョークノブを **I** の位置に回します。
- ▶ スクリュー (1) を緩めます。
- ▶ フィルターカバー (2) を取り外します。
- ▶ フィルター周囲の浮いた汚れを取り除きます。
- ▶ フィルターエレメント (3) を取り外します。
- ▶ 汚れているか、損傷しているフィルターエレメント (3) は交換してください。
- ▶ 損傷した部品は交換してください。

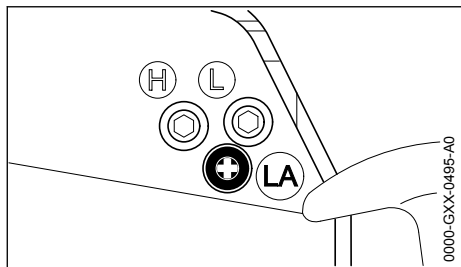
### 22.2 フィルターエレメントの取り付け

- ▶ フィルターエレメント (3) をフィルターハウジングに取り付け、カバーを取り付けます。
- ▶ スクリュー (1) を差し込み、しっかりと締め付けます。

## 23 キャブレターの調整

キャブレターは、大半の運転条件下で混合気が最適化されるよう工場出荷時に設定されています。

## 23.1 アイドリング回転数の調整



### アイドリング回転中にエンジンが停止する場合

- ▶ エンジンを約3分間、暖機します。
- ▶ エンジンが円滑に作動するようになるまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を時計回りにゆっくりと回転させます - ソーチェンは回転してはいけません。

### アイドリング中にチェンも回転する場合

- ▶ チェンが停止するまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を反時計回りに回転させた後、同一方向にさらに 1/2 ~ 3/4 回転させます。



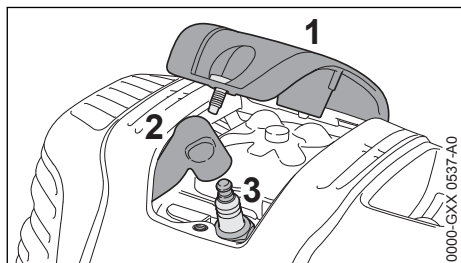
警告

エンジンのアイドリング中にチェンが回転し続ける場合は、サービス店にパワーツールの点検と修理を依頼してください。

## 24 スパークプラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパークプラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

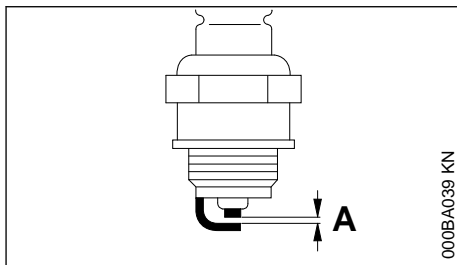
### 24.1 スパークプラグの取り外し



- ▶ カバー (1) を取り外します。

- ▶ スパークプラグターミナル (2) を抜き取ります。
- ▶ スパークプラグ (3) を緩めます。

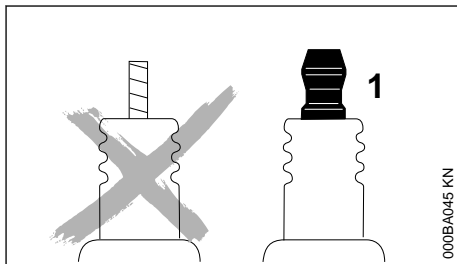
### 24.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ (A) を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルター汚れ
- 劣悪な使用環境



警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

### 24.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグ (3) をシリンダーにねじ込みます。
- ▶ コンビネーションレンチを使用してスパークプラグ (3) を締め付けます。

- ▶ ターミナル (2) を確実にスパークプラグに押し込みます。
- ▶ カバー (1) を取り付け、しっかりと締め付けます。

## 25 機械の保管

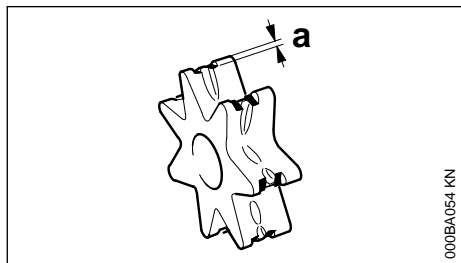
30 日以上の保管時

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合は、手動燃料ポンプを 5 回以上押します。
- ▶ エンジンを始動し、停止するまでアイドルングさせます。
- ▶ ソーチェンとガイド バーを取り外します。掃除して、保護オイルを吹き付けます
- ▶ 機械を丁寧に掃除します - 特にシリンダーフィンとエア フィルターに注意します
- ▶ 生分解チェン オイル (STIHL バイオプラスなど) を使用するときときは、オイルタンクいばいにオイルを入れます
- ▶ 機械を乾いた安全な場所に保管します。子供や他の無断使用者の手の届かない場所に保管してください。

## 26 チェンスプロケットの点検と交換

- ▶ チェンスプロケットカバー、ソーチェン、ガイドバーを取り外します。

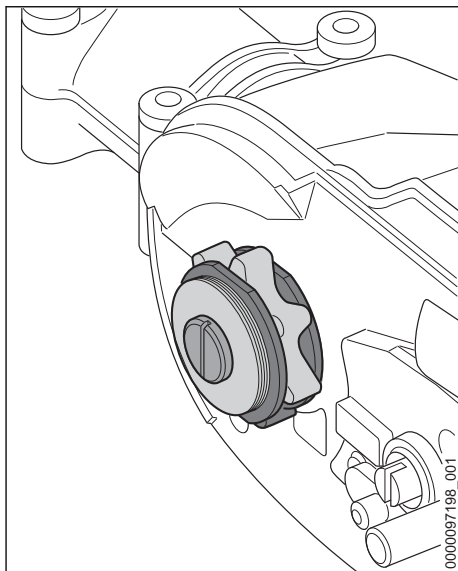
### 26.1 チェンスプロケットの交換



- ソーチェン 2 本を使い切った後に交換してください。
- スプロケット上の磨耗マーク (a) が約 0.5 mm (0.02 in) を超えたならば、チェンの寿命が短くなるので、直ちに交換します。ゲージ (特殊アークセラー) を使用して、磨耗マークの深さを点検します。

2 本のソーチェンを交互に使用すると、チェンスプロケットの寿命が延びます。

STIHL 社では STIHL 純正チェンスプロケットの使用をお勧めしています。



チェンスプロケットは、フリクションクラッチによって駆動されます。チェンスプロケットの交換は STIHL サービス店に依頼してください。

STIHL 社では、整備や修理を STIHL サービス店だけに依頼されることをお勧めしています。

## 27 ソーチェンの整備と目立て

### 27.1 正しく目立てされたチェンで無駄な切断労力の削減

正しく目立てされたチェンを使うと簡単に木材を切ることができ、また加える力も少なくすみます。

切れ味の悪いチェンや傷んでいるチェンで作業しないでください。身体に大きな負担がかり、切断状態も十分でなく、刃の摩耗が早いからです。

- ▶ チェンの汚れを取り除きます。
- ▶ チェンにひびが入っていないか、リベットが破損していないか調べます。
- ▶ チェンに損傷や磨耗を発見したら、今までの部品とサイズや形状が同じ新しい部品と交換します。

超硬チップ付きソーチェン (デュロ) は、特に耐摩耗性が強くなっています。当社では、チェンの目立てをスチール サービス店に依頼されることをお勧めします。



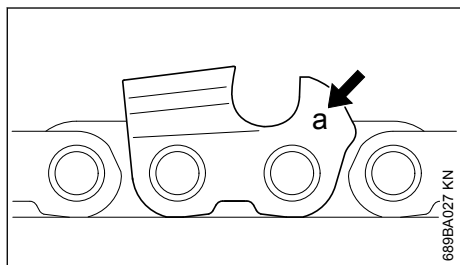


警告

以下に指定した角度と寸法に適合していることが絶対に重要です。デプスゲージが低すぎるなどソーチェンが間違っ目立てされると、キックバックの危険度が増して、**怪我をする危険があります。**

ソーチェンを、ガイドバー上で固定することはできません。そのため、チェンをガイドバーから外し、スタンド型目立機 (FG 2、HOS、USG) で目立てしてください。

## 27.2 チェンのピッチ



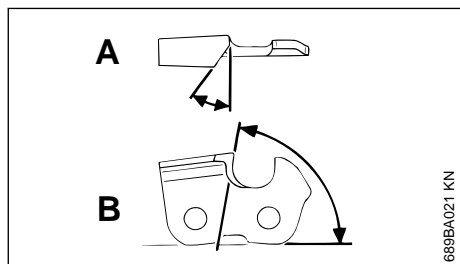
ピッチサイズ (a) は、すべてのカッターのデプスゲージ部分に刻印されています。

マーキング (a)	チェンのピッチ	インチ	mm
7	1/4 P		6.35
1 または 1/4	1/4		6.35
6、P または PM	3/8 P		9.32
2 または 325	0.325		8.25
3 または 3/8	3/8		9.32

ヤスリ径は、ピッチに合わせて選んでください。「目立工具」の表を参照してください。

目立ての際は、カッター角度を保持してください。

## 27.3 上刃・横刃目立て角度



A 上刃目立角

スチールソーチェンは、上刃目立て角度 30 度まで目立てします。リッピングチェンは例外で、上刃目立て角度は 10 度です。リッピングチェンは名称に X が含まれます。

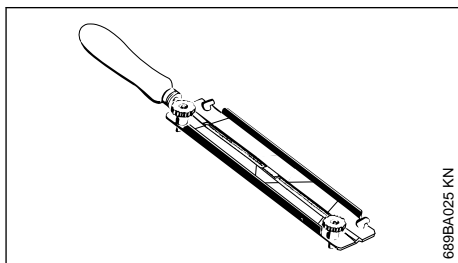
## B 横刃目立て角度

正しい横刃目立て角度は、所定のファイルホルダーとヤスリ径を使用すると、自動的に得られます。

カッターの形状	角度(°)	
	A	B
マイクロ = セミチゼルカッター、63 PM3、26 RM3、71 PM3 など	30	75
スーパー = チゼルカッター、63 PS3、26 RS、36 RS3 など	30	60
リッピングチェン、63 PMX、36 RMX など	10	75

すべてのカッターの角度を同じにしてください。もし角度が不揃いになるとチェンの回転はガタついて、まっすぐに回りません。磨耗が速くなり、ついには破損します。

## 27.4 ファイルホルダー

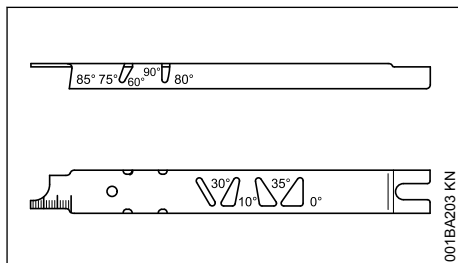


### ▶ ファイルホルダーの使用

ソーチェンを手作業で目立てするには、必ずファイルホルダーを使用してください。「目立工具」の表を参照)。正しいヤスリ角度はファイルホルダーに刻印されています。

専用のチェンソーヤスリだけを使用してください。他のヤスリでは、形や削れ方が合いません。

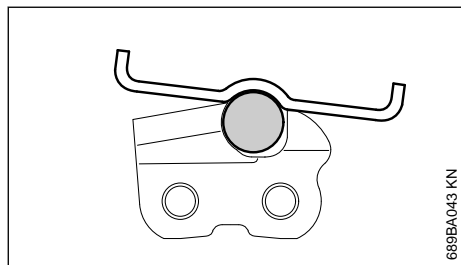
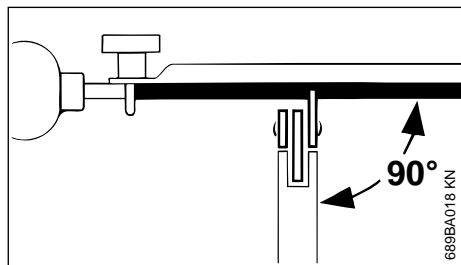
## 27.5 角度の点検用工具



スチール ファイリング ゲージ(特殊アクセサリ、「目立工具」の表を参照)を使用してください。上刃・横刃目立角度、デプスゲージのセッティング、カッターの長さ、溝の深さが点検できる便利な汎用ゲージです。ガイドバーの溝とオイル孔の掃除にも使えます。

## 27.6 正しい目立ての仕方

- ▶ チェンピッチに合った目立て工具を選んでください。
- ▶ FG 2、HOS および USG を使用する場合: チェンをバーから外し、工具に付いている取扱説明書に従って目立てします。
- ▶ 必要なら、バーを万力に挟んでください。
- ▶ 目立を頻繁に行い、ほんのわずか刃先を擦ります - 通常の見立てではヤスリを2~3回当てることで十分です。



- ▶ ヤスリは水平(ガイドバー側面に対して直角)に握り、ファイルホルダーに刻印された角度で目立てします。ファイルホルダーをトッププレートとデプスゲージの肩に載せます。
- ▶ 常にカッターの内側から外側に向かってヤスリをかけます。
- ▶ ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします - 後方ストロークのときはヤスリをカッターから少し離してください。
- ▶ ヤスリが、タイストラップやドライブリンクに、接触しないようにしてください。
- ▶ 片側が摩耗しないように、ヤスリは一定の時間ごとに回して使用してください。
- ▶ 硬木の小片でエッジのバリを取り除いてください。

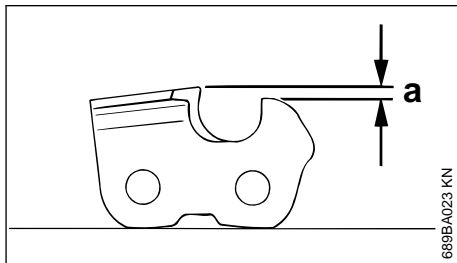
- ▶ ファイリングゲージで角度を点検してください。

すべてのカッターの長さを同じにしてください。

長さが異なると、刃の高さが揃いません。もし不揃いになると、チェンの回転がガタ付いて損傷することがあります。

- ▶ 一番短いカッターを見つけ、そのカッターに合わせて、他のカッターの長さを全て同じにします。サービス店の電動グラインダーで目立てすることを勧めます。

## 27.7 デプスゲージの設定



デプスゲージによって、カッターが木に食い込み深さ、つまり削り取られる木の厚さが決まります。

### a デプスゲージとカッター先端との設定間隔。

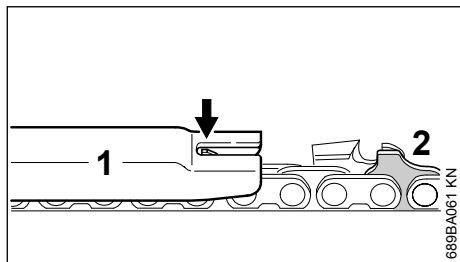
この設定は、穏やかな季節すなわち霜がないときに軟らかい木を切断する場合は、0.2 mm (0.008") 増やすことができます。

チェンのピッチ		デプスゲージ 設定値 (a)	
インチ	(mm)	mm	(インチ)
1/4 P	(6.35)	0.45	(0.018)
1/4	(6.35)	0.65	(0.026)
3/8 P	(9.32)	0.65	(0.026)
0.325	(8.25)	0.65	(0.026)
3/8	(9.32)	0.65	(0.026)

## 27.8 デプスゲージを低くする

チェンの目立てを行うと、デプスゲージ量が小さくなります。

- ▶ チェンの目立てを行うたびに、ファイリングゲージでデプスの高さを点検します。



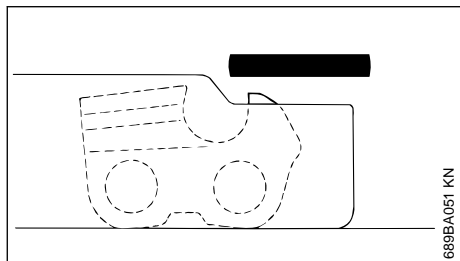
- ▶ チェンのピッチに合ったファイリングゲージ (1) をソーチェンに載せ、カッターに押しつけます - デプスゲージがファイリングゲージから出ている場合は、デプスゲージを低くします。

セーフティドライブリンクが付いたソーチェン (2) - セーフティドライブリンクの上部 (2) (サービスマーキング付き) はデプスゲージと一緒に下がります。

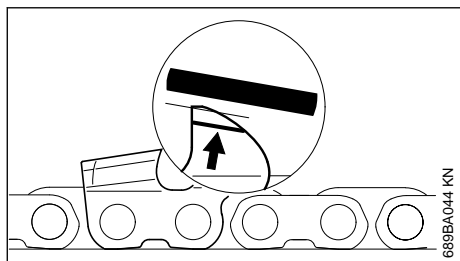


警告

セーフティドライブリンクの他の部分をヤスリで削ってはいけません。パワーツールがキックバックを起こす危険が高まります。



- ▶ デプスゲージは、ファイリングゲージと同じ高さになるように仕上げてください。

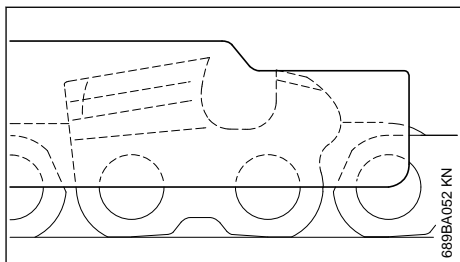


- ▶ その後、デプスゲージの肩をサービスマーキング (矢印を参照) と平行になるように削ります - その際デプスゲージの最も高い位置が、後方にずれないように注意してください。



警告

デプスゲージが低すぎると、機械がキックバックを起こしやすくなります。



- ▶ ファイリングゲージをソーチェンに載せます - デプスゲージの最も高い位置がファイリングゲージと一致しなければなりません。
- ▶ 目立てが終了したら、チェンをよく洗浄し、ヤスリやグラインダーの切削粉を取り除いて、チェンに十分に潤滑油を塗布してください。
- ▶ 長時間使用しない場合は、チェンをきれいに洗浄し、潤滑油を塗布して保管してください。

目立工具 (特殊アクセサリ)								
チェーンのピッチ		丸ヤスリφ		丸ヤスリ	ファイルホルダー	ファイリングゲージ	平ヤスリ	目立キット <sup>1)</sup>
インチ	(mm)	mm (インチ)	(インチ)	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号
1/4 P	(6.35)	3.2	(1/8)	5605 771 3206	5605 750 4300	0000 893 4005	0814 252 3356	5605 007 1000
1/4	(6.35)	4.0	(5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
3/8 P	(9.32)	4.0	(5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
0.325	(8.25)	4.8	(3/16)	5605 772 4806	5605 750 4328	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1028
3/8	(9.32)	5.2	(13/64)	5605 772 5206	5605 750 4329	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1029

<sup>1)</sup>丸ヤスリ、平ヤスリ、ファイリングゲージ付きファイルホルダーで構成

## 28 整備表

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所等)は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。		高 速 作 業 時 間 短 縮 後 の 作 業 終 了 後 ま た は た た い 作 業 終 了 後 ま た は た い	毎 日	毎 週	毎 月	毎 12 カ 月	故 障 時	損 傷 時	合 計 必 要 な 場 合
機械本体	目視検査 (状態と漏れ)	X		X					
	清掃		X						
コントロールハンドル	作動点検	X		X					
エアフィルター	清掃						X		X
	交換 <sup>2)</sup>							X	
手動燃料ポンプ (装着されている場合)	点検	X							
	修理はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>							X	
燃料タンク内のピックアップボディ (フィルター)	点検はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>						X		
	交換はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>					X		X	X
燃料タンク	清掃						X		X
キャブレター	アイドリング調整の確認 - チェンが回転しないこと	X		X					
	アイドリング回転数の調整								X
スパークプラグ	電極ギャップの再調整						X		
	100 運転時間毎に交換								
冷却風吸入部	目視検査		X						
	清掃								X
シリンダーフィン	清掃はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>					X			
バルブクリアランス	出力が低下しているか、始動に大きな力が必要						X		X

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所等)は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。		高 速 作 業 時 間	日 毎 日 作 業 終 了 後	毎 日 作 業 時	毎 週 作 業 時	毎 月 作 業 時	毎 12 カ 月 作 業 時	故 障 時	損 傷 時	合 計 必 要 な 場 合
	なときは、バルブクリアランスを点検し、必要に応じてサービス店に調整を依頼してください <sup>1)</sup>									
燃焼室	150 運転時間毎にサービス店に清掃を依頼してください <sup>1)</sup>									X
すべての手の届くスクリユーとナット(調整スクリユーを除く)	締め直し									X
防振装置	点検	X						X		X
	交換はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>								X	
チェーンの潤滑	点検	X								
ソーチェン	点検および切れ具合を点検	X		X						
	チェーンの張りを点検	X		X						
	目立て									X
ガイドバー	点検(摩耗、損傷)	X								
	清掃し、ガイドバーを裏返しにする				X			X		
	バリ取り				X					
	交換								X	X
チェンスプロケット	点検				X					
	交換はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>									X
安全ラベル	交換								X	

<sup>1)</sup>STIHL 社では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています。

<sup>2)</sup>エンジン出力が著しく低下した場合のみ

## 29 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリーの使用。

- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

### 29.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニング

を受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

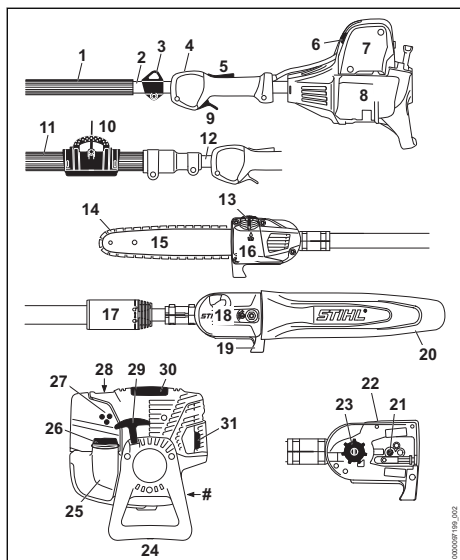
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エア フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンダー フィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

## 29.2 磨耗部品

カットオフソーの部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- ソーチェン、ガイドバー
- 駆動部品(クラッチ、クラッチ ドラム、チェンスプロケット)
- フィルター(エア フィルター、オイル フィルター、燃料フィルター)
- リワインド スターター
- スパーク プラグ
- 防振システムのコンポーネント

## 30 主要構成部品



- 1 ハンドルホース (HT 134)
- 2 固定シャフト (HT 134)
- 3 吊り下げ用リング (HT 134)
- 4 停止スイッチ
- 5 スロットルトリガーロックアウト
- 6 チョークレバー
- 7 エアフィルタカバー
- 8 燃料タンク
- 9 スロットルトリガー
- 10 クリップ (HT 105、HT 135)
- 11 ハンドルホース (HT 105、HT 135)
- 12 テレスコープシャフト (HT 105、HT 135)
- 13 オイルタンクキャップ
- 14 Oilomatic ソーチェン
- 15 ガイドバー
- 16 オイルタンク
- 17 ロックナット (HT 105、HT 135)
- 18 チェンスプロケットカバー
- 19 フック
- 20 チェンガード
- 21 チェンテンション装置
- 22 マーキングライン
- 23 チェンスプロケット
- 24 マシンサポート
- 25 燃料タンク
- 26 燃料タンクキャップ
- 27 キャブレター調整スクリュー
- 28 手動燃料ポンプ
- 29 スターターグリップ
- 30 カバー
- 31 マフラー
- # 機械番号

## 31 技術仕様

### 31.1 エンジン

STIHL 単気筒 4 ストロークエンジン(混合燃料使用)

#### 31.1.1 HT 105

排気量: 31.4 cm<sup>3</sup>  
 シリンダー径: 40 mm  
 ピストンストローク: 25 mm  
 ーク:

ISO 8893 に準拠 1.05 kW  
 した出力： (1.4 PS),  
 8000 rpm 時  
 ISO 11680 に準 2800 ± 50 rpm  
 拠したアイドリ  
 ング回転数：  
 回転数制御範囲 9500 rpm  
 (公称値)：  
 バルブクリアラ  
 ンス  
 吸気バルブ： 0.10 mm  
 排気バルブ： 0.10 mm

### 31.1.2 HT 134, HT 135

排気量： 36.3 cm<sup>3</sup>  
 シリンダー径： 43 mm  
 ピストンストローク：  
 ISO 8893 に準拠 1.4 kW  
 した出力： (1.9 PS),  
 8500 rpm 時  
 ISO 11680 に準 2800 ± 50 rpm  
 拠したアイドリ  
 ング回転数：  
 回転数制御範囲 9500 rpm  
 (公称値)：  
 バルブクリアラ  
 ンス  
 吸気バルブ： 0.10 mm  
 排気バルブ： 0.10 mm

## 31.2 イグニッションシステム

エレクトロニクマグネットイグニッション

スパークプラグ (雑音防  
 止)：

HT 105: Bosch USR 7 AC  
 HT 134, HT 135: NGK CMR 6 H,  
 BOSCH USR 4AC  
 電極ギャップ: 0.5 mm

## 31.3 燃料システム

燃料ポンプ搭載全方向ダイヤフラム式キャブレ  
 ター

燃料タンク容量: 530 cm<sup>3</sup> (0.53 l)

## 31.4 チェンの潤滑

ロータリーピストン式回転数制御全自動オイル  
 ポンプ

オイルタンク容量: 220 cm<sup>3</sup> (0.22 l)

## 31.5 重量

燃料なし、カッティングセットなしの状態

HT 105: 7.9 kg  
 HT 134: 6.0 kg  
 HT 135: 7.9 kg

## 31.6 カッティングセット HT 105

実際の切断長は、指定された切断長より短い場合  
 があります。

### 31.6.1 ガイドバー Rollomatic E Mini / Rollo Light 01

刃渡り: 25、30、35 cm  
 ピッチ: 1/4" P (6.35 mm)  
 溝幅: 1.1 mm

### 31.6.2 ソーチェン 1/4" P

Picco Micro 3 (71 PM3) タイプ 3670  
 ピッチ: 1/4" P (6.35 mm)  
 ドライブリンク厚: 1.1 mm

### 31.6.3 チェンスプロケット

8 枚歯、1/4" P 用

## 31.7 カッティングセット HT 134

実際の切断長は、指定された切断長より短い場合  
 があります。

### 31.7.1 ガイドバー Rollomatic E Mini / Rollo Light 01

刃渡り: 25、30、35 cm  
 ピッチ: 3/8" P (9.32 mm)  
 溝幅: 1.1 mm

### 31.7.2 ソーチェン 3/8" P

Picco Micro Mini 3 (61 PMM3) タイプ 3610  
 ピッチ: 3/8" P (9.32 mm)  
 ドライブリンク厚: 1.1 mm

### 31.7.3 チェンスプロケット

7 枚歯、3/8" P 用

## 31.8 カッティングセット HT 135

実際の切断長は、指定された切断長より短い場合  
 があります。

### 31.8.1 ガイドバー Rollomatic E Mini / Rollo Light 01

刃渡り: 25、30、35 cm  
 ピッチ: 3/8" P (9.32 mm)  
 溝幅: 1.1 mm

### 31.8.2 ガイドバー Rollomatic E Mini / Rollo Light 01

刃渡り: 25、30、35 cm  
 ピッチ: 1/4" P (6.35 mm)  
 溝幅: 1.1 mm

### 31.8.3 ソーチェン 3/8" P

Picco Micro Mini 3 (61 PMM3) タイプ 3610  
 ピッチ: 3/8" P (9.32 mm)  
 ドライブリンク厚: 1.1 mm

### 31.8.4 ソーチェン 1/4" P

Picco Micro 3 (71 PM3) タイプ 3670  
 ピッチ: 1/4" P (6.35 mm)  
 ドライブリンク厚: 1.1 mm

### 31.8.5 チェンスプロケット

7 枚歯、3/8" P 用  
8 枚歯、1/4" P 用

## 31.9 騒音・振動数値

騒音値と振動値の算出では、同じ部品でのアイドルリングと公称最大回転数が考慮されています。

振動に関する事業主への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

[www.stihl.com/vib](http://www.stihl.com/vib) をご覧ください。

### 31.9.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル $L_{peq}$

HT 105:	92 dB(A)
HT 134:	92 dB(A)
HT 135 3/8" P:	93 dB(A)
HT 135 1/4" P:	92 dB(A)

### 31.9.2 ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル $L_{weq}$

HT 105:	105 dB(A)
HT 134:	106 dB(A)
HT 135 3/8" P:	106 dB(A)
HT 135 1/4" P:	106 dB(A)

### 31.9.3 ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv,eq}$

#### HT 105

シャフトを縮めた状態

シャフト:	5.0 m/s <sup>2</sup>
コントロールハンドル:	5.5 m/s <sup>2</sup>
シャフトを伸ばした状態	
シャフト:	5.0 m/s <sup>2</sup>
コントロールハンドル:	5.0 m/s <sup>2</sup>

#### HT 134

シャフト:	
HT 134	3.2 m/s <sup>2</sup>
コントロールハンドル:	
HT 134	3.2 m/s <sup>2</sup>

#### HT 135

シャフトを縮めた状態

シャフト:	4.3 m/s <sup>2</sup>
コントロールハンドル:	4.8 m/s <sup>2</sup>
シャフトを伸ばした状態	
シャフト:	4.8 m/s <sup>2</sup>
コントロールハンドル:	5.0 m/s <sup>2</sup>

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s<sup>2</sup> です。

## 31.10 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

[www.stihl.com](http://www.stihl.com)

## 31.11 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO<sub>2</sub> 値は、以下に記載されています -

[www.stihl.com/co2](http://www.stihl.com/co2)

(製品ごとの技術データ)。

CO<sub>2</sub> 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。


## 32 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

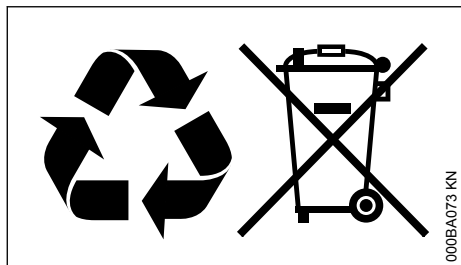
スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボルマーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

## 33 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。





- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

### 34 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
Badstr. 115  
D-71336 Waiblingen  
Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

モデル:	高枝カッター
製造ブランド:	STIHL
タイプ:	HT 105
	HT 134
	HT 135
シリアル番号:	4182

排気量	
HT 105:	31.4 cm <sup>3</sup>
HT 134:	36.3 cm <sup>3</sup>
HT 135:	36.3 cm <sup>3</sup>

が、指令 2011/65/EU、2006/42/EC および 2014/30/EU の関連する条項に適合しており、製造の時点で有効であった次の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 11680-1、EN 55012、EN 61000-6-1

EC 型式検査の実施者

KWF Service GmbH  
Spremberger Straße1  
64823 Groß-Umstadt  
Deutschland

証明書番号

HT 105:	K-EG 2023/9491
HT 134:	K-EG 2023/9493
HT 135 3/8" P:	K-EG 2023/9495
HT 135 1/4" P:	K-EG 2023/9495

技術文書の保管:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2023年6月1日、Waiblingenにて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人

Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs  
& Global Governmental Relations

CE

### 35 UKCA 適合宣言

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
Badstr. 115  
D-71336 Waiblingen  
Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

モデル:	高枝カッター
製造ブランド:	STIHL
タイプ:	HT 105
	HT 135
シリアル番号:	4182

排気量	
HT 105:	31.4 cm <sup>3</sup>
HT 135:	36.3 cm <sup>3</sup>

が、英国規則「The Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Regulations 2012、Supply of Machinery (Safety) Regulations 2008、Electromagnetic Compatibility Regulations 2016」の関連する規定に適合しており、製造日時点で有効であった以下の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 11680-1、EN 55012、EN 61000-6-1

型式検査の実施者

Intertek Testing & Certification Ltd, Academy  
Place, 1 – 9 Brook Street, Brentwood Essex,  
CM14 5NQ, United Kingdom

証明書番号

HT 105:	UK-MCR-0025
HT 135 3/8" P:	UK-MCR-0026
HT 135 1/4" P:	UK-MCR-0026

技術文書の保管:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2023年5月3日、Waiblingenにて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs  
& Global Governmental Relations

**UK**  
**CA**

36 アドレス

[www.stihl.com](http://www.stihl.com)



[www.stihl.com](http://www.stihl.com)



0458-699-4321-B



0458-699-4321-B